

火災から身を守るために

二学期が始まりました。夏休みは、怪我なく有意義に過ごすことができたでしょうか。長い休みが明けたばかりですが、今月は定期考査もあります。気持ちを切り替えて、落ち着いた学校生活を送りましょう。今からちょうど30年前の1995年には阪神淡路大震災があり、地震によって発生した火災で多くの方が被害に遭いました。今回は、火災から身を守るためにどのような行動をとればよいのか、考えてみましょう。

1 火災の危険性

令和6年は、全国で37,036件の火災が発生しました。これは、およそ一日につき101件、14分ごとに1件の火災が発生したことになります。その中でも、20,908件と圧倒的に多いのが、建物での火災です。出火原因別にみると、たばこ、たき火、こんろの順になっています。

2 火災を防ぐために

私たちは、毎日電化製品を利用していますが、その配線器具（電源コードやコンセント）周辺にも、火災の危険が潜んでいます。家具の裏など掃除しにくい場所にあるコンセントは、ほこりが溜まりやすくなっており、そのほこりが原因で発熱・発火するおそれがあります。また、電源コードが断線して、火災につながる場合もあります。このような事態を防ぐために、普段から以下の点に気を付けましょう。

◎コンセント周りの掃除を心掛け、ほこりを溜めないようにする。

◎電源コードを何度も曲げたり、ねじったりしない。片付ける時に、製品本体にコードを巻き付けない。

◎電源プラグを抜く時は、コードを引っ張らずにプラグを持って引き抜く。

3 火災発生時には

火災で危険なのは、実は火よりも煙です。煙は広がるスピードも速く、有毒なガスが含まれています。大量に吸い込んでしまうと、意識がなくなるおそれがあります。逃げる時は、できるだけ姿勢を低くして、必ず口元をぬれタオルやハンカチでふさぎ、煙を吸い込まないように工夫をしましょう。

また、火災が発生したとき、小さな炎のうちは、消火器などで火を消すことができます。いざというときに備えて、消火器の正しい使い方を確認しておきましょう。

【消火器の使い方】

- ① 風上に立ち、消火する位置を決める。
- ② 安全栓を上引き抜く。
- ③ ホースをはずし、炎ではなく、火元に向ける。
- ④ レバーを強く握って噴射する。

※消火器は各階廊下、階段の踊り場、格技室に設置されています